



AIDS UPDATE

No.142 2024/9/5

発行者：広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351



HIV抗体検査相談従事者のためのカウンセリング研修会のご報告

臨床心理士 黄 寛 美

皆さんこんにちは。臨床心理士の黄です。7月5日に中国四国ブロック内でHIV抗体検査相談業務に従事する医師、保健師および派遣カウンセラーなどを対象にした研修会を開催いたしました。会場は広島駅前にある、エールエールA館内の4月にオープンしたばかりの貸会議室だったので、“デパートの中で研修会”という何とも不思議な体験となりました。

今回はHIV検査業務に従事して1年未満という、フレッシュな方のご参加が多く、また今年度から「広島県エイズホットライン」を実施して下さっている検査技師会からも、多くの検査技師の方にご参加いただきました。かくいう私も初めての参加（しかもスタッフとして！）だったので、始まる前から緊張していました。

最初にHIV感染症の最新基礎と検査について、当室室長の藤井先生が（諸事情により）Zoom形式で講義を行いました。余談ですが、久々のZoomだったので、回線が切れないか、音声が無事に届くのか、スタッフは終始ドキドキしておりました。

講義後は当事者の方からお話をいただきました。支援者にとって大切にしなければならない対応、配慮など、改めて考えることができました。参加者からも「当事者と接する機会がなく、今回は直接お話を聞くことができ本当にありがたかった」など非常に多くの感想をいただきます。当事者の体験を聴くことで支援者としてできることは何かを改めて考える機会になるのだと思います。改めて今回講義をくださった当事者の方に感謝申し上げます。

後半は小グループに分かれてHIV検査相談場面のロールプレイを行いました。

ロールプレイは参加者が演じたい場面を決めて、受検者役、支援者役、観察者役と、役割を交代しながら進め、ロールプレイ後はグループディスカッ

ションを行い、全体でシェアしました。

ディスカッションはどのグループも活発に行われていて、ロールプレイを通して気づいた受検者の抱く不安な気持ちや、告知場面で感じた支援者側の緊張感など、それぞれが体験した出来事を積極的にグループ内でシェアされていました。それを会場全体で共有することで、参加者の皆さんが理解を深めていく様子は、とても印象に残りました。

また、参加者の皆さんが、休憩時間などを利用して情報共有や名刺交換をされる様子が多く見られ、初参加の私は「皆さん積極的すぎい！」と感動し、うっかり名刺を忘れた自分の失敗は思考の隅に追いやりました。その後、スタッフの振り返りでも、皆さんが積極的な交流をされたことがとても嬉しく、改めて対面開催ならではの良さを実感いたしました。

終了後のアンケートで、参加者の皆様から「知識をアップデートすることができた」、「ロールプレイで業務外の場面を知ることができ、情報共有ができてよかった」などの感想をいただきました。私自身も、地域や職種を超えて、参加者の皆さんと交流できたことは大きな実りになりました。

次年度も本研修会を開催するとともに、これからもHIV検査や診療に携わる皆様のお役に立てる研修会を開催してまいります。また、皆様にもご報告できればと思います！



2024年度 第1回・第2回 看護師のための エイズ診療従事者研修開催報告@広島大学病院

エイズ医療対策室 坂本 涼子

2024年度も例年通り、広島大学病院にて看護師のためのエイズ診療従事者研修（初級者）を開催いたしました。第1回目は6月27・28日、第2回目は7月25・26日に行われ、中四国ブロック内から計34名の看護師が参加しました。

研修の目標は、参加者がHIV感染者/エイズ患者の基本的なニーズを理解し、質の高いケアを提供できるようになることです。研修内容は「HIV/AIDSの基礎知識」「HIV看護について」「HIV疾患と歯科」「心理的支援」「社会資源の活用」「性の多様性」「薬害エイズの歴史」「HIV陽性者との座談会」「ロールプレイ」でした。

各講義では参加者から積極的な質問が寄せられ、アンケート結果からも理解度と満足度が非常に高いことが分かりました。

特に好評だったのは、HIV陽性者との座談会でした。この座談会では、陽性者の経験談や告知場面での対応について質問し、参加者が実際に対話する形式を取りました。アンケートには「当事者と直接話せて良かった」「告知の際の配慮が重要だと改めて感じた」といった声が多く寄せられました。初級者コースとして、HIV陽性者の視点を知ること、今後の患者対応に対する心構えが培われたと感じました。

また、ロールプレイも大変有意義でした。患者役

と看護師役に分かれて実際の面談場面を再現し、その後各グループで感想や実際の対応方法を共有しました。参加者からは「ロールプレイを通じて理解が深まり、難しさも体験できた」「具体的な面談の進め方が学べた」という意見がありました。講師からも具体的な患者面談の事例が紹介され、現場での実践に役立つ内容でした。

今回の形式をとることで、知識だけでなく実践的な学びを提供できたことが、参加者のHIV看護に対する理解を深め、今後のケアに役立つと感じました。今後もこの研修を通じて、参加者がHIV感染者/エイズ患者の基本的なニーズを知り、よりよいケアを提供できるようになる研修を続けていきたいと思えます。



HIV感染症とその併存疾患

エイズ医療対策室長 藤井輝久

みなさん、こんにちは。室長の藤井です。HIV感染症の治療は、シンプルかつ有効性の高いものになり、患者さんの生命予後は非常に改善しています。今や、非感染者とほぼ同じ平均余命です。本院の通院患者さんの平均年齢は50歳を越えていますが、日本ほど高齢化が進んでいない国でも同様です。

となると、他の慢性疾患と同様『エイジング』が問題です。ここでは、HIV感染症患者さん（以下、HIV陽性者とします）がよく合併している併存疾患についてご紹介します。

1. 高血圧

日本高血圧学会は、日本人の3人に一人が高血圧と推計していますが、HIV陽性者も例外ではありません。さらに喫煙率の高さ（約40%と推計）や、治療薬による腎障害などもあり、高血圧を併存している者は約40%とされています。

2. 糖尿病

日本人の糖尿病有病率は約12%で60代男性では4人に1人と推計されています。HIV陽性者はMSM、つまり生物学的に男性ですから、同様に多いこととなります。以前は治療のために使用した副腎皮質ステロイドによる薬剤関連が多かったのですが、最近では肥満や生活習慣からくる一般の糖尿病が増えています。

3. 脂質異常症

日本人の総患者数は220万人で、女性が男性に比べ2.4倍多いと言われています。HIV陽性者、特にエイズ発病者は『やせ』が多かったのですが、最近では治療のおかげでエイズ発病してもすぐに軽快するため、むしろ『肥満』が増えています。治

療薬による『体重増加』も最近では問題視されています。HIV陽性者では高LDL血症よりも、高TG血症の割合が多く、HIV陽性者の約33%、女性のみなら約半数に及ぶとする報告もあります。前述の高血圧、糖尿病にも関連するのですが、HIV陽性者は動脈硬化の進行が早く、冠動脈疾患（CVD）の有病率も高いことが知られています。そのため、高脂血症がなくても、スタチンを使用すべきとする専門家もいます。実際、ピタバスタチン投与群は非投与群に比べ、約5年間の観察期間での冠血管イベントを約35%低下させたそうです。

4. 悪性腫瘍

エイズ発病とされる23の疾患の中に、悪性腫瘍も含まれています（カポジ肉腫、非ホジキンリンパ腫、中枢神経系リンパ腫、子宮頸がん）。しかし、治療により免疫低下を防いでいるため、こういった疾患より、一般の『がん』が併存疾患として問題となっています。これを『非エイズ関連悪性腫瘍』（NADM）といいます。NADMとして非感染者より有病率が高いのは、肝細胞癌、肺癌、白血病、生殖器癌、舌癌などです。

現在、HIV陽性者は主に血液内科で診療していますが、HIV感染症より、前述の併存疾患の診療がメインになっている方も多くなっています。

『エイズ？ あれは血内へ紹介すればいい』って考えていませんか？ 血液内科で診療すべき状況なのか、と考えることも多くなってきました。遠くない将来、血液内科以外の診療科が主担当となって診る日も近いのでは？



お知らせ



初めてでもできるHIV検査の勧め方 告知の仕方を改訂しました！

エイズ医療対策室 杉本 悠貴恵

皆さま、こんにちは。臨床心理士の杉本です。

このたび、エイズ医療対策室で発行している『初めてでもできるHIV検査の勧め方 告知の仕方』をバージョンアップしましたので、ご案内いたします。

HIV感染症の治療は年々進歩し、治療によって生命予後が大幅に改善されました。とはいえ、HIV感染症の診断が遅れて未治療の状態が長期化すると、肺炎や活動性結核、ヒホジキンリンパ腫など重篤な疾患を引き起こし、後遺症が残ることや、死に至ることもゼロではありません。ただ、肝炎や梅毒と比べてHIV感染症の検査は、勧めること自体にハードルが高く、告知をするとさらさらハードルが上がって勧めにくいということも耳にすることがあります。その不安を解消し、少しでも早い段階でHIV感染症の検査を行っていただき、早期治療につなげたい！という思いから、HIV検査を患者さんに実施していただくためのポイントをまとめた冊子を作成しています。今回、この冊子をリニューアルし、検査前後の注意事項に加えて、各場面で必要となる

会話の例やポイントを掲載しました。また、巻末資料として、HIV検査場面や結果告知時に活用できる情報をQRコード形式で掲載しております。ぜひこの冊子をご一読いただき、診療の中でお役に立てただけでしたら幸いです。冊子は中四国エイズセンターのホームページ（URL：https://my.ebook5.net/aids-chushi/kensakokuchi_8/）または、QRコードからご覧いただけます。

また、当室では、HIV検査について～HIV感染のリスクを考えて検査を行う医療者のためのガイドブック～も発行しています（URL：https://my.ebook5.net/aids-chushi/HIVtest_10/）。こちらは、HIVの感染経路と感染率、HIV感染症に関連する症状についての情報を掲載しております。こちららもぜひご活用いただけますと幸いです。



HIV検査の勧め方・告知の仕方



HIV検査について

新加入メンバーのご紹介

エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー
浦島 藍子

2024年6月より、エイズ医療対策室にリサーチレジデントとして入職しました、ソーシャルワーカーの浦島藍子と申します。生まれも育ちも広島で、以前は社会福祉士としてリハビリテーション病院に勤務しておりました。

経験もまだまだ浅く、毎日学ぶことばかりですが、患者さまと一緒に自分らしい豊かな生活について考えていければと思っています。

好きな食べ物はオタフクソースで、コロケや天ぷらにかけるのが好きです。もちろんお好み焼きは大好きで、特に好きな具材は分厚めでもちもちタイプの生地です。おすすめのお好み焼き屋さんがあればぜひ教えてください！

至らない点もあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

